

第2 言語学習者のための
態度診断とストラテジー指導

土 屋 澄 男

Attitude Diagnosis and Learning Strategy
Instruction in Second Language Teaching

Sumio Tsuchiya

Recent research has shown that second language learning can be affected by such individual learner factors as age, aptitude, cognitive style, motivation, and personality. Differences in these factors result in differences in the rate at which learners learn and the level of competence they eventually attain.

The following factors may be difficult, if not impossible, for language learners to control.

a) age b) language aptitude c) personality

On the other hand, the following can be changed and controlled by learners themselves, which means that they can also be controlled by teachers.

d) cognitive style e) motivation f) affective factors

The aim of the present paper is to discuss the question of how language teachers can help their students control these changeable learner factors.

はじめに

第2 言語学習には、学習者のさまざまな一般的、個人的ファクターが作用している。これまでの研究で、それらのファクターの主なものとして、年齢、言語適性、認知スタイル、性格特性、動機、情意ファクターなどが挙げられている。筆者はすでに発表した論文において、それらのうちどれが学習者自身にとってコントロールが容易であり、どれが難しいかについて検討した¹⁾。その検討の結果を簡潔に要約すると次のようである。

まず、次の諸ファクターは、学習者にとってコントロールが容易でないと思われる。

- a) 年齢
- b) 言語適性
- c) 性格特性

一方、比較的に変化しやすく、学習者自身にとってもある程度コントロールできると思われるものは、次の3つのファクターである。

- d) 認知スタイル
- e) 学習の動機または意欲
- f) 情意ファクター

もしこれらのファクターが学習者によってコントロールが可能であるとすれば、それはすなわち指導者によってもコントロール可能なことを意味するであろう。いかにしてそのようなことが可能になるかを検討するのが本稿の目的である。

1 良い言語学習者の特質

1975年のRubinの発表を皮切りに、良い言語学習者の特質に関する研究が活発となった²⁾。その理由は、良い言語学習者の特質が明らかになれば、一般の言語学習者にとって大いに参考になるであろうし、第2言語を教え

る教師にとっても、指導上の貴重なヒントを得ることができるはずだという考えからである。しかし、すでに述べたように、年齢や言語適性や性格適性などのファクターは、学習者にとっても教師にとってもコントロールが難しい。したがって、良い学習者の特質としてこれらのファクターが挙げられたとしても、一般の学習者や教師にとってあまり参考になるとは思われない。参考になるのは、比較的に変化しやすいファクターであり、学習者自身にとってコントロールが可能なものである。

ところで、良い学習者の特質に関する最近の研究の多くは、「ストラテジー」(strategy)という観点からなされている。ストラテジーの定義に関する議論は次節にゆずるとして、ここでは単に「第2言語の学習者が言語の知識を獲得したり使用したりする際に用いるアプローチの一般的傾向あるいは特性」としておく。すると、良い言語学習者が用いるストラテジーは、これまでの研究に基づいて、次の4つの種類に分けられるように思われる。³⁾

1. 1 積極的計画ストラテジー

良い学習者は、言語学習に要求される仕事の大きさを考慮して、目標・下位目標を適切に設定し、それぞれの発達段階を正しく理解すると共に、各段階での学習過程に積極的に参加している。つまり、良い学習者はそのような計画性と積極的参加のストラテジーを発達させている。

1. 2 認知的学習ストラテジー

言語学習は、かなりの程度、知覚や認知の力を必要とする仕事であり、教室におけるフォーマルな学習形態では、殊更にそのような能力が強調される。したがって、良い学習者は与えられた学習場面で何をすべきかを知っている。すなわち、言語は形式と意味を結ぶ一定のルールを持つ体系であることを知り、それらの特徴に注意を払う。その場合に、学習者の第1言語のルールと対比することが、学習を促進することもあり、逆に干渉となることもある。良い学習者はこのことをわきまえ、すべてを第1言語の知

識にたよることはしない。第2言語の体系は、学習者がある程度意識的に知覚される体系として発達させていくものであり、絶えず自らの体系を修正しながら発達させていくものである。良い学習者はこのことを正しく理解し、言語を分析し、練習や記憶の技術を発達させる。また、自分自身の言語行動をモニターし、ネイティブ・スピーカーのそれと対比しながら改善をしていく。こうしてしだいに第2言語のシステムを第1言語から独立させ、文法性や適切性の内的規準を獲得していく。ここで用いられるストラテジーがどこまで生得的なファクターによって影響されるものかは判然としないが、正常な人間がみな第1言語の習得に成功することからして、子供が第1言語の獲得に使用する学習ストラテジーの多くは、第2言語の学習者にとっても大いに役立つにちがいない。

1. 3 社会的学習ストラテジー

言語は他者とのコミュニケーションを通して習得されるものであり、その意味で、それは社会的なプロセスである。しかし言語の学習は、特に初期の段階において、指導者や周りの人々に全面的に依存させるを得ない状況に置かれる。人の言うことがよく理解できず、自分の言いたいことも思うように言えないからである。学習者は必然的にそのような「幼児化現象」(infantilization)を受け入れざるを得ない。良い言語学習者はそのような状態を理解し、学習が進むにつれて、自己をしだいに解放と自立に向けようとする。そのために、彼らは目標言語の使用者と⁴⁾の言語使用の機会を積極的に捉え、それを最大限に利用しようとする。そのようにして、必要な「コミュニケーション・ストラテジー」(communication strategies)をしだいに発達させていく。

1. 4 動機的・情意的ストラテジー

良い学習者は、言語学習に伴う情緒や動機づけに関する諸問題をうまく処理している。教室での学習においても、自然な習得環境においても、言

語学習には特有の情緒的問題が発生する。たとえば「言語ショック」や「カルチャーショック」と呼ばれる現象、あるいは仲間同士や教師との間に生じる緊張などは、言語学習には必ずと言ってよいほど発生する。そのような困難にもかかわらず、良い言語学習者はフラストレーションを克服し、積極的に学習課題に取り組むストラテジーを発達させている。これに反して、良くない言語学習者は何かのショックやストレスを経験するとたちまち自己防衛の姿勢を取り、いわゆる「情意フィルター」(affective filter) を高くしてしまう。こうなると、学習に必要なインプットはすべてはねつけてしまうから学習は成立しない。良い学習者は、言語学習者としての自己に対して、また目標言語とその文化・社会に対して、あるいは、言語と言語学習そのものに対して、積極的な態度を育成し、保持し続ける。

2 態度とストラテジー

前節において、われわれは最近の第2言語習得の研究に基づき、良い学習者の特質をストラテジーの観点から記述した。ところでこの「ストラテジー」という用語は、研究者によってかなり異なった意味またはニュアンスを持って使われており、これからの記述のために、もっと厳密に定義しておく必要があると思われる。

先に、われわれはストラテジーを、ひとまず、「第2言語の学習者が言語の知識を獲得したり使用したりする際に用いるアプローチの一般的傾向あるいは特性」と定義しておいた。これは多くの研究者が用いているこの用語の最大公約数的定義なのであるが、言語の学習や指導にしばしば用いられる「態度」(attitudes) という用語と密接に関連しており、かなり重複する面もあるように思われる。事実、後に述べるように、これらの用語は同じ事象の両面を表している用語と考えることができる。

2. 1 態度

心理学辞典によれば、態度とは「経験的に獲得されて固定された永続的な反応傾向」と定義されている⁵⁾。人はある課題に直面すると、それぞれ特有の反応傾向を示す。態度とはそのような行動への準備状態である。言語の学習においては、すでに見てきたように、計画性、練習、知覚、記憶、コミュニケーション、動機づけなど、さまざまな知的、社会的、情意的な反応が要求される。人はみな、これまでの学習によって獲得した言語に関する「態度」を、それぞれの学習場面に持ち込んでくる。そこには、言語と言語学習そのものに対する態度、目標言語とその文化や社会に対する態度、学習者としての自己に対する態度が含まれる。そしてそれら諸々の言語的態度が、それぞれの学習者の学習行動に影響を与え、それをある程度規定しているのである。

ところで、態度は変化し得るものであろうか。もしそれが上の定義のように「固定された永続的な」ものであるとすれば、変化しにくいものであろう。しかし「経験的に獲得された」ものであるから、生得的なものとは違って、それを意識に上らせることができるならば、変化させることも可能であると考えてよい。通常は意識されていないので、変化させることが難しいと感じられるものである。

2. 2 ストラテジー

これに対して、ストラテジーは多かれ少なかれ意識的に使用されるものである。それは常に意識の表面にあるとは限らないが、内省によって意識に浮かび上がらせることが比較的容易なものである。学習者は目標を達成させるために、さまざまなアプローチの中から一つを選んで使用する。その時には意識しなくても、後になってなぜそのアプローチを選択したのかを反省するならば、多くの場合、説明がつくものである。サイレント・ウェイ (the Silent Way) やコミュニティ・ランゲージ・ラーニング

(Community Language Learning) による指導では、授業の後に必ず反省 (reflection) の時間を設けて、授業中に自分がどのように与えられた学習課題に取り組んだかを反省させる。その狙いは、主として、使用したアプローチを意識化させることにある。

では、ストラテジーの概念の中に、たとえば知らない単語を辞書でしらべるとか、暗誦するのに同じ文章を幾度も反復するとかのように、学習活動に関する特定の「学習技術」(learning techniques) を含めてよいであろうか。この点に関しては議論のあるところであるが、外から観察できる具体的な学習のテクニックは、一応ストラテジーとは区別しておくのがよいと思われる。たとえば、外国語で書かれたものを読んでいて知らない単語に出くわした場合にどうするか。その対処の仕方には、少なくとも次の3通りの方法があると思われる。

- a) 分からないままに先に読み進む。
- b) 辞書を引いて意味をしらべる。
- c) コンテキストからその意味を類推する。

学習者が上のどのアプローチを取るかは、まさにストラテジーの問題である。それに対して、どのようにして辞書を引くか、どのようなコンテキストの手がかりを利用するかは、学習のテクニックの問題だと言ってよいであろう。

一応このように区別するとしても、実際には判然と区別できない場合もあると思われる。しかし後で詳しく述べるように、ストラテジーはあくまでも、学習者が課題を遂行するために用いるアプローチの一般的特性を記述しようとするものである。

本節において、われわれは「態度」と「ストラテジー」の用語の違いを説明しようとした。要するに、前者は学習者が学習場面に持ち込む心的準備状態をいうのに対して、後者は学習者が用いる学習課題への取り組み方を

指すと言ってよいであろう。したがって両者は密接に関連しており、学習者が特定の学習課題に直面してどのようなストラテジーを用いるかは、かなりの程度その人の獲得している学習態度によって左右されるであろう。そうだとすれば、ストラテジーを変えようとするれば、学習態度そのものを変えることが必要な場合も出てくるであろう。

3 態度の診断

本稿の目的は、最初に述べたように、第2言語の学習に作用する学習者のファクターのうち、学習者自身にとってコントロール可能なものを抽出し、それらを学習者の意識に浮かび上がらせることによって、自分自身をより良い学習者として再組織させる方策を考えることである。われわれはすでに、良い学習者の用いる4種類のストラテジーについて検討した。これらは、ある程度まで、学習者自身によってコントロールできると考えられるものである。そこで具体的な方策の一つとして、個々の学習者が第2言語の学習場面にどのような態度を持ち込んでいるかを、内省によって浮かび上がらせることを目的とする「英語学習者のための態度診断テスト」を提案したい。

以下の診断テストは、そのような試みの一つである。⁶⁾

3.1 計画性・積極的参加に関する態度

これは1.1に挙げた「積極的計画ストラテジー」に対応している。この診断テストは、学習の計画性と積極的参加に関して、学習者がどのような態度を発達させているかを診断しようとするものである。学習者は次の5つの項目について、1から5までの5段階に自己評価するように求められる。

- a) 英語の学習の目標がはっきりしている。
- b) 英語の学習を自分で計画を立てて進めている。

- c) 英語の学習で何をすべきかをよくわきまえている。
- d) 授業外でも、あらゆる機会をとらえて英語を使おうとしている。
- e) 失敗するかもしれない場合でも、思い切って英語を使ってみる。

3. 2 認知的学習に関する態度

これは1. 2の「認知的学習ストラテジー」に対応している。この診断テストは、認知的学習において、学習者がどのような学習態度を発達させているかを、内省による自己評価によって、診断しようとするものである。学習者は次の5項目に答えるように求められる。

- f) 英語の学習をする時、教科書やテキストをよく朗読する。
- g) 英語の文法を学ぶことに興味がある。
- h) 英語の単語を覚えるのに、自分なりに工夫をしている。
- i) 文の意味を考える時、その文の前後関係や場面を考慮する。
- j) 教室で学んだことを実際に応用して使ってみようと心がけている。

3. 3 社会的学習に関する態度

これは1. 3の「社会的学習ストラテジー」に対応している。ここでは、言語学習の社会的な諸相に関して、学習者がどのような態度を発達させているかを診断しようとするものである。学習者は次の5つの項目に答えるように求められる。なお、これらの項目は、日本人の英語と英語文化への関心度を考慮して作成してある。

- k) どんな人とでも友達になれる自信がある。
- l) 英語を話す人々と直接に話す機会を求めている。
- m) 英語で外国の人と文通している。またはその機会を求めている。
- n) 英語の授業で、クラスの人たちの前で朗読したり、発表したりすることを好む。
- o) 人前で恥をかきたくないという気持が強い。

3. 4 動機づけ・情意面に関する態度

これは1. 4の「動機的・情意的ストラテジー」に対応する。ここでは習者の情意フルターの高さと自我の柔軟性を診断しようとしている。学習者は次の5つの項目に答えるように要求される。

- p) 全般的にみて、英語の学習は楽しい。
- q) クラスが変わったり先生が変わったりした時、すぐに雰囲気慣れる。
- r) 英語の授業でクラスの他の人のことが気になる。
- s) 英語の授業中に先生に指されるのではないかと、いつもびくびくしている。
- t) 英語の授業中やテストに失敗した時、すぐにやる気を失う。またはかえってやる気を出す。

4 ストラテジーの指導

言語学習のストラテジーが指導できるものかどうかについてはいろいろな意見があり、その明確な指導効果を証拠づける研究はまだ出ていない⁷⁾。しかし、すでに述べたように、もし学習者が自分の用いるストラテジーを意識に上らせることができ、それらを良い学習者の用いるストラテジーと対比することができるならば、たとえ容易ではないとしても、適切な指導によって変化させ得るものであると考えるのは、極めて合理的なことである。その場合に次の3点を考慮することが必要であろう。

- a) 年齢による違い
- b) 習熟度の違い
- c) 学習条件の違い

ここでは、日本の中学校・高等学校における通常の学習条件下で、言語学習のストラテジーをどのように指導したらよいかについて、英語指導を

例に取って考察することにする。

4. 1 計画性・積極的参加に関するストラテジー

第2言語習得は、どのような状況においても、極めて骨の折れる仕事である。これをらくらくと達成する者はいない。学習者はこのことをよく知らなくてはならない。子供はその第1言語を一見やすやすと習得してしまうように思えるが、決してそうではない。自分に与えられている習得に必要な能力をフルに活用するからこそ、成功者となり得るのである。子供は言語が何であるかを学ぶところから始めなくてはならないのであるから、大人よりもはるかに大変な仕事をしていることになる。もしわれわれが子供の時に発揮した言語習得能力をもう一度呼び戻すことができるならば、だれでも成功者になるはずである。第2言語習得の成功者は、すべて、そういうことができた人だと言ってよいであろう。

「計画性」ということは、言語の習得には時間が必要だということである。それはまた、一時にすべてのことを行なうことはできないということでもある。人は言語の音声、語彙、文字、文法など、言語のすべての面に同時に意識を集中することはできない。また、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことのすべてを同時に行なうこともできない。最近の言語指導は、言語の実践的なコミュニケーション活動を重視し、その活動を総合的に提示する方法をすすめている。しかし、それだからと言って、学習者がそれらの活動に含まれるすべての要素に意識を集中できるわけではない。何に集中し、何を捨てるかは、学習者に任されている。教師はこのことを理解し、生徒の個性を尊重するとともに、言語技能の習熟には時間がかかることを知らなければならない。生徒にそのコースの目標や各授業の狙いを説明し、納得させることは、生徒が自分の学習計画を立てたり、授業中に何をすべきかを考えるうえで役に立つであろう。

一方「積極的参加」ということは、外面的な行動よりも、学習者自身が

自分の持っている学習能力のすべてを動員し、それらをフルに活用するという内的な活動である。学習者は授業において、また授業外において、あらゆる機会をとらえて英語を練習し、また実際に使ってみる必要がある。そのようなストラテジーを発達させるには、何よりも教師の授業に対する考え方とその進め方に工夫が必要である。授業の成否は、生徒の積極的参加がどこまで達成されたかによって決まると言っても過言ではない。

4. 2 認知的学習に関するストラテジー

教室における言語指導は、自然な言語習得場面と異なり、語彙や文法などの分析的学習に偏り、時に文献学的研究に陥ることさえある。そのような方法で教えられる生徒は、しばしば自然な言語使用とは全く無関係の、文法のための文法学習、文献研究のための言語学習にのみ要求される特殊な学習ストラテジーを発達させてしまう。その証拠は、大学に入学してくる学生の英語学習を観察することによって容易に得られる。たとえば、彼らの多くは辞書をよく引くが、テキストの中で未知の単語に出会うと、コンテキストと無関係に意味を得ようとする。あるいは、書かれたテキストを音声化して、それを話し言葉に結びつけることが不得意である。このようなストラテジーは、中学校・高等学校で発達させたものにちがいない。そして、それはある程度は指導の結果であると言ってよいであろう。

認知的学習ストラテジーは、このように、指導のあり方と密接に関連している。生徒にどのようなストラテジーを発達させるかは、かなりの程度、教師の手中にある。そこで、言語学習にとって望ましいストラテジーがどのようなものであるかを、教師は十分に研究する必要がある。その場合に、少なくとも次の4種類のストラテジーについて考慮することが重要である。

- a) コンテキストから意味を得るストラテジー
- b) 言語の形式に注意するストラテジー
- c) 効果的練習と実際場面で応用するストラテジー

d) 言語のモデルに注意し、自分のアウトプットをモニターするストラテジー

4. 3 社会的学習に関するストラテジー

この学習ストラテジーは、学習者の性格特性と関連しているかもしれない。特に言語をコミュニケーションの道具として学ぼうとする時には、ある程度の「社交性」が必要である。外向的な人の方が内向的な人よりも言語の発達が速いという議論もある⁸⁾。人との付き合いを好まない人は、どんな言語であれ、このストラテジーを発達させることは比較的難しいであろう。このことはわれわれの身の周りにも日常的に観察できる。いわゆる「口べた」な人はどこの社会にも存在する。その人たちが他の種類の学習ストラテジーにも劣っているということではない。ただ話し言葉によるコミュニケーションが不得意だということである。そういう人の中には、書き言葉によるコミュニケーション（すなわち、文章を読んだり書いたりすること）は人並み以上に得意とする人もある。

以上の考察から、このストラテジーの指導は、認知的学習ストラテジーの場合に比べて、教室での指導が難しいと言える。しかし極端に無口な生徒を除いて、多くの生徒は親しい者同志ではよくしゃべるものである。生徒が失敗を恐れずに、気楽に英語を話す雰囲気を教室内に作ることによって、友人と英語で話し合ったり、朗読し合ったりすることができるようにすることは、教師の工夫しだいで十分に可能である。最近のAET制度による英語のネイティブスピーカーの学校訪問は、そのようなコミュニケーションの場を生徒に提供するよい機会となるであろう。

4. 4 動機づけ・情意面に関するストラテジー

第2言語学習における動機づけと情意面の重要性は、近年ますます注目されている。子供の第1言語の習得においては、これらが問題になることはほとんどない。なぜであろうか。その理由は、子供はすべて自己の生存

に必要なものを学ぶのに内的に動機づけられており、外からの動機づけを必要としないからである。言語に関しても、第1言語の習得は生まれながらにして内的に動機づけられている。しかしいったん第1言語の習得を完了してしまうと、新しい言語の習得は外的な動機づけが必要となる。実際に、大人の言語学習の多くは‘instrumental’な動機に支えられている⁹⁾。たとえば、それを学ぶことによって取引が有利になる、よい地位が得られる、よい大学に入れる、などの動機である。したがって、その言語を使わざるを得ない環境が与えられても、最低限の使用で済ませようとする。

言語習得の情意面に関しても、子供と大人では非常に異なる。子供は思春期になると自意識が発達し、子供の時には意識しなかった他人の目を意識するようになる。したがって誤りを恐れる。誤りを恐れることは言語学習にとって致命的である。

大人が言語学習に用いるストラテジーは、4.1から4.3に挙げた種類のストラテジーに関しては、子供の場合よりも全般的に豊富であり、洗練されていると言えるであろう。特に認知的ストラテジーは子供のそれとは比較にならないほど多様であり、また有用であり得る。ところが動機づけと情意面に関するストラテジーは子供のそれに数段劣っている。思春期に達した生徒は教室の他の仲間を意識し、彼らの前で誤りを犯すことを極度に恐れる。大クラスでは教師に指名されはしないかといつもびくびくしている。こういうことでは学習が全く成立しないのはむしろ当然である。

教室における第2言語指導の最大のポイントは、生徒のこのような‘affective filter’をいかに低めるかにある。まず、クラスの人数を減らすことが必須である。10人くらいのクラスであれば、生徒が互いに意識することは少なくなる。そのようにして、すべての恐れや不安から解放することによって、自己の感情や情緒を適切にコントロールするストラテジーを学ばせることが可能となる。

〈注と参考文献〉

- 1) 土屋澄男(1991)「言語学習における学習者の態度とストラテジー」『英語英文学』第18号 文教大学英文学会
- 2) Rubin, J. (1975) "What the 'good language learner' can teach us" *TESOL Quarterly* 9:41-51.
Rubin の挙げた良い学習者の特質は次のようである。
 - a) 推測を好み、その推測が正確である。
 - b) コミュニケーションをしようとする強い意欲を持つ。
 - c) 自分の弱点をさらけ出し、誤りを犯すことを恐れない。
 - d) 言語の形式に注意をはらう。
 - e) 練習をする。
 - f) 自分自身の発話をモニターし、ネイティブの基準と比較する。
 - g) 言語の意味に注意をはらう。
- 3) このストラテジーの分類は Stern による。Stern, H. H. (1983) *Fundamental Concepts of Language Teaching*, Oxford University Press, pp. 411-2.
- 4) 第2言語の不完全な知識によって意味を伝えようとする際に、学習者が用いるコミュニケーションのテクニックをいう。Faerch, C. and G. Kasper (1983) *Strategies of Interlanguage Communication*, Longman.
- 5) 外林大作ほか(1981)『心理学辞典』誠信書房。
- 6) ここに述べる「英語学習者のための態度診断テスト」は、土屋(1991)の別表に掲げてあるものを、その後の調査に基づき、改訂したものである。このテストの妥当性については、まだ十分な検討を経ていない。
- 7) この問題は Izawa が検討し、このような結論に至っている。Izawa, H. (1990) "Learning Strategies Research: Historical Overview and

Critical Issues” *JACET Bulletin* 21 : 59-78 .

- 8) Krashen, S. D. (1981) *Second Language Acquisition and Second Language Learning*, Pergamon.
- 9) Gardner and Lambert は、言語学習の動機を ‘integrative’ なものと ‘instrumental’ なものとに分けた。前者はその言語を話すコミュニティの一員として受け入れてもらおうとすること、後者は職を得るなどの道具として言語を学ぶことをいう。しかしこの区分は必ずしも判然とはしない。筆者の考えでは、‘integrative’ な動機の純粹なものは子供の言語習得に見られるものであり、成人の言語学習は、どのような環境においても、多かれ少なかれ ‘instrumental’ なものにならざるを得ないように思われる。Gardner, R. C. and W. E. Lambert (1972) *Attitudes and Motivation in Second Language Learning*, Newbury House.